

# コロナ禍でのクルーズ 振興への取り組み



大阪大学  
国際公共政策研究科長・  
同教授  
**赤井 伸郎**

## 魅力ある港と、 クルーズ客船によるダイレクトアクセス

島国である日本には、津々浦々に港があり、陸路ではアクセスが難しいとしても、港からあればアクセスがしやすい魅力的な場所は、数えきれないほどあると思います。その港に直接寄港できれば、交通機関を乗り換えることなく、魅力ある目的地にダイレクトにアクセスできます。クルーズ客船は、季節ごとに日本中の港に寄港し、その地域の魅力を全国に伝えてきました。客船が寄港しているということ自体が、全世界に、その港と地域のポテンシャルを発信するのです。クルーズ客船による観光客の訪問を受けた港エリアでは、地域住民に元気が与えられ、それは観光振興を通じても地域経済を潤し、地域活性化にも貢献します。

## チャレンジ

コロナ禍においては、感染対策として移動が自粛・制限され、クルーズ客船も多大な影響を受けました。特に、「3密」によってコストパフォーマンスを高め、様々な体験を提供してきたクルーズ客船は、徹底した感染対策に取り組んでいるにもかかわらず、リスクの高い場所とのイメージを持たれ、避けられるようになってしまいました。クルーズ業界は、逆境の中、有効な感染対策を伴った新しいビジネスモデルの確立に向け、必死の挑戦をしています。PCR検査を行い陰性が確認された人だけが乗船するというルールの下では、社会よりも安全な場所とも言えます。一度乗船した客は、その感染対策に満足していると聞きます。まずは、その挑戦をより多くの人に知ってもらうことが大事です。すでに、欧米を中心に、クルーズ客船の運航はコロナ前の水準まで戻っています。乗船前のPCR検査を含めた多面的な感染対策を行い、相対的に安全な旅となったとしても、感染リスクを完全にゼロにすることは難しいことも事実です。コロナウイルスとの共存の道を進むことが現実的です。クルーズ船社は、コロナウイルスは存在するという下での新しいクルーズスタイルを追い求め、受け入れる寄港地も、住民の理解を得て、進化することが求められます。

### クルーズ振興のための情報共有サロン型ONLINEコンファレンス開催経緯

回	日時	開催テーマ	参加者
1	2020年5月1日	寄港事例から学ぶ(金沢港、舞鶴港、広島港)	80
2	2020年5月29日	①「ダイヤモンドプリンセス事例から学ぶ」 ②「寄港事例から学ぶ(酒田港、清水港、油津港、沖縄エリアの港)」	86
3	2020年7月31日	クルーズ再開事例と再開に向けた船社の取り組み	116
4	2020年9月28日	クルーズガイドライン策定	102
5	2020年11月6日	邦船クルーズ再開PART1	92
6	2020年12月18日	邦船クルーズ再開PART2	81
7	2021年5月28日	感染症に対する国際的法務対応	127
8	2021年7月30日	乗船者感染確認事例から学ぶ今後の邦船クルーズ	99
9	2021年11月12日	コロナ禍でのクルーズ再開：世界の動き	92
参加者合計			875

### アカデミックにおける取り組み

これまで、旅の玄関口としての港の役割を再認識し、クルーズ振興を通じた地域活性化を目指して、アカデミックな立場では、様々な活動が行われてきています。ここでは私が関わっている活動をいくつか紹介したいと思います。一つは、「スマートクルーズアカデミー」です。2012年以来、コロナ前まで17回まで開催を重ね、参加者総数は、500名を超えていました。このプログラムは、大学教員、クルーズ船社、国土交通省および寄港先の自治体の皆様の協力をいただき、「持続可能な地域社会構築に向け社会問題の解決策を考える」ことを目的に、クルーズ客船上という洋上空間において、学生や関係者が意見交換をするプログラムであり、毎回、実施後に作成するレポートからも、新たな学びがあったことがうかがえます。また、学生という新鮮な視点からの気付きがクルーズ関係者に新たな発見を提供できることもありました。受講した学生は、この受講の経験を活かし、すでに社会で幅広く活躍しています。また、全国クルーズ活性化会議が主催する「研修クルーズ」とも連携し、港湾関係者との意見交換や交流を通じ、お互いに効果的なプログラムを実施してきました。二つ目は、「日本クルーズ＆フェリー学会」の活動です。学会では、関係する様々な方の参加をいただき、アカデミックな視点から、現状分析および課題把握を行い、技術面、経済面、文化面からクルーズおよびフェリーに関わる課題解決の方向性についての議論を行い、これまで、社会に向け多方面に精力的な情報発信をしてきています。

### オンラインコンファレンスの取り組み

コロナ禍では、スマートクルーズアカデミーのような形での対面の意見交換や、クルーズ関係者の情報共有の場も持つことも難しくなりました。しかしながら、このような

時だからこそ、問題意識と情報を共有し新たな気付きがある場としてのアカデミーの意義が高まっていると考え、オンラインでコンファレンスを開くことにしました。それが、「クルーズ振興のための情報共有サロン型ONLINEコンファレンス」です。できるだけ気軽に参加し、情報共有してもらいたいという願いから、「サロン型」というネーミングにもこだわりました。2020年5月に開始し2021年11月まで、計9回のコンファレンスを開催してきました。その概要は、表にまとめているとおりです。

第1回と第2回では、ダイヤモンドプリンセス号での感染時の実態把握を行い、第3回では、海外の感染や対応事例を学び、第4回では、国で策定されたガイドラインの詳細を共有し、第5回と第6回では、このガイドラインを受けてクルーズを再開した邦船社における感染対策について紹介し、第7回では、専門家から感染症に対する国際的な対応の考え方を学び、第8回では、クルーズ再開後の乗船者感染確認事例と対応を振り返り、第9回では、世界で再開されているクルーズの実態を共有しました。

クルーズ再開時に、全国の港での受け入れがスムーズに進み、寄港が実現するためにも、常日頃の住民との対話が大事です。その意味でも、その時々のクルーズの運航状況や感染対策への工夫はもちろん、再開に向けた動きに関する情報を関係者間で的確に共有することは重要であり、これらのアカデミックな試みは、コロナ禍で移動が制限される中、関係者の間では貴重な情報源になっていると思われます。今後も、このような機会を通じて、コロナ禍での日本発着・寄港クルーズの再開に向けて役立つ情報が提供され、魅力ある港にクルーズ客船が寄港し、人と人との交流が進み、地域が活性化する日が来ることを期待したいと思います。